

昨年の運営委員会で気候危機についてフォーラムとしても何か発信を、と言う問題提起があった。そこでこの問題について発信することにした。

気候変動に関する政府間パネル（IPCC）、気候変動枠組条約、京都議定書、SDGs などにより、気候危機のことは若干分かってきた。そして、極端な高温、豪雨、大規模な干ばつ、森林火災、台風の巨大化、氷河融解や海水温度の上昇、生態系の変化、増える感染症などが、世界や日本で現実には起きている。それらを目の当たりにして危機感も増していた。とりあえず、家庭でのエネルギー削減などを実行していた。だが、その程度。そこで “新春初学習” にトライした。

IPCC の「1.5 度特別報告書」によると、2030 年までに大気中への温室効果ガス（主に CO₂）の排出を 2010 年比で 45%削減し、2050 年までに実質ゼロを達成できないと、世界の平均気温の上昇を産業革命前に比して、1.5 度までに抑えることができない。すでに世界の平均気温は 1.1 度～1.2 度上昇していて、大気中の温室効果ガスが一定濃度を越えてしまうと後戻りが効かず、破局的な状態に陥ってしまうとのこと。まさに人類の運命がかかっている。フランス、イギリス、イタリア、ドイツ、カナダなど多くの国は、石炭火力か

らの撤退年限を表明、アメリカも 2035 年までに電力部門の CO₂ 排出実質ゼロを表明。日本はどうか。①2030 年度目標は、2010 年比にすると 42%。他の先進国は、最低でも 50% 以上の削減目標を掲げている。②石炭火力からの撤退も表明せず、石炭火力の新規建設や石炭火力輸出を推進。③2030 年度に、原発で発電量の 20%～22%を賄うとしている。つまり、「脱炭素」を口実に 27 基程度の原発再稼働を目論んでいる。④火力で排出される CO₂ を回収し地下に貯留する技術、火力の燃料にアンモニアを混ぜたり、アンモニア単独で燃やす技術などを開発したりして CO₂ の排出を減らすとしている。実用化の目途は無い。明らかに日本は他の先進国に比して立ち遅れている。先の衆院選で政権交代に向け市民連合と野党 4 党が、6 つの政策合意を結んだ。その一つに、「地球環境を守るエネルギー転換と地域分散型経済システムへの移行」がある。これは我々にとって有力な選択肢である。

グレータ・トゥーンベリさんは、一人で Fridays for Future という学校ストライキを始め、この運動は世界中に広がっている。また、世界で、日本で、様々な階層の人々が声をあげている。我々も学習し、声をあげ、行動しなくては。緊急に！

今後の主な予定

- | | | |
|------------------------|------------------------|-------------|
| 2月 4日 (金) 13時～ | スタジイ楽書会 | |
| 2月 11日 (金) 13時～16時 30分 | 教育のつどい 2022 (群馬県高教組主催) | 教育会館 5F ホール |
| | 第一部 斎藤幸平氏講演「SDGs を超えて」 | 第二部 意見交流会 |
| 2月 18日 (金) 13時～ | スタジイ楽書会 (未定) | |
| 3月 4日 (金) 13時～ | スタジイ楽書会 | |
| 3月 6日 (日) | さよなら原発アクション (高崎城址公園) | |

※コロナウイルス感染拡大の状況などにより予定が変更される場合があります。

ぐんま教育文化フォーラムの E-mail アドレスが下記の通りに変わりました

育ちと学び No. 50 ぐんま教育文化フォーラム

2022 年 1 月 28 日 発行

〒371-0026 前橋市大手町 3-1-10 群馬県教育会館 3F

[TEL・FAX] 027-235-8876

[E-mail] forum.gunma@gmail.com

[URL] <http://gkb-forum.sakura.ne.jp>



スマホからホームページへ

